

第 12 回 駿河湾・伊豆海嶺地域研究集会 サクラエビと駿河湾の海洋環境について考える

日 時: 2023 年 3 月 10 日 (金) 13:00-17:30
 場 所: 東海大学海洋学部 3 号館 3401 教室 (静岡市清水区折戸 3-20-1)・オンライン (ハイブリッド)
 コンビナー: 植原 量行・高橋 大介・田中 昭彦 (東海大学海洋学部)
 共 催: 東海大学海洋学部
 参加申込: ホームページに掲載予定
 問合せ先: 植原 量行 (e-mail: ueharak@scc.u-tokai.ac.jp)

プログラム

挨拶:	木村 伸吾 (一般社団法人水産海洋学会長)	13:00-13:05
開会挨拶:	斎藤 寛 (東海大学海洋学部長)	13:05-13:10
趣旨説明:	植原 量行・高橋 大介・田中 昭彦 (東海大海洋)	13:10-13:15

サクラエビと駿河湾の海洋環境

1. 駿河湾サクラエビ資源の現状と水技研の取り組み
 … 小林 憲一・鈴木朋和 (静岡水技研) 13:15-13:45
2. 衛星から見た駿河湾の河川水流入とクロロフィル分布
 … 田中 昭彦 (東海大海洋)・石坂 丞二 (名大 ISEE)・虎谷 充浩 (東海大工) 13:45-14:15
3. 夏季駿河湾における亜表層の水温低下現象の実態
 … 植原 量行・高橋 大介 (東海大海洋)・小林 憲一 (静岡水技研) 14:15-14:45
4. 沿岸潮位から見た駿河湾の海洋構造の季節変動
 … 高橋 大介・植原 量行 (東海大海洋) 14:45-15:15
5. 駿河湾海洋環境の理解の一助となる HF レーダー観測の紹介
 … 鈴木 優人 (中部電力) 15:15-15:45

休憩 15:45-16:00

駿河湾を取り巻く外洋・温暖化等の状況

1. 黒潮大蛇行に伴う遠州灘および周辺海域の海況の変化
 … 日下 彰 (水産機構資源研) 16:00-16:30
2. 駿河湾の過去 40 年の水温変化と 2100 年までの水温上昇
 … 瀬藤 聡 (水産機構資源研) 16:30-17:00

総合討論: サクラエビ資源に関わる駿河湾の環境動態の把握について考える 17:00-17:30

開催趣旨: 駿河湾漁業の花形であるサクラエビ漁は、産卵期とされる 6 月から 9 月までを禁漁期間とし、禁漁明けの 10 月下旬から 12 月下旬を秋漁、3 月下旬から 6 月上旬までを春漁と称して実施されている。サクラエビ漁が成立して 100 年余、脈々と漁が続けられてきたが、2018 年の春漁では過去 30 年で最低となる記録的な不漁となったことを受けて、同年秋漁が事実上休漁となった。この記録的な不漁の原因は数年たった現在でも不明であるが、2018 年以降の漁獲規制の結果、資源が回復の兆しを見せ始めたのではないかと声があるものの、資源状態は著しく低い状態に変わらない。静岡県のデータによると、そもそもサクラエビの年間漁獲量はこれまでに大きく変動していることがわかっている。しかしながら人為的影響と自然変動による影響を含めたサクラエビの資源動態メカニズムは未だ不明である。そこで本研究集会では、サクラエビ資源の変動と、主に海洋環境の変化(人為起源・自然変動を含む)について議論し、サクラエビ漁業の最適な管理体制を構築するための一助としたい。

なお、今年度の研究集会は、2020 年 3 月 13 日にコロナ感染対策のため中止とせざるを得なかった研究集会を再構成して実施するものである。